

大学と家庭をむすぶ 後援会通信「グロース」秋号

GROWTH

 東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

vol.27-2015 Autumn



リレーインタビュー

12,000の瞳、
12,000の輝き。

series 9

学生時代は、多くのことに出会い、
気づき、学んでいく成長の季節。

その姿には

一括りに語るこのできない

豊かで多彩な個性の輝きがあります。

今、興味をもっていること、

打ち込んでいるもの、将来の目標、

そして夢。

東北学院大生一人ひとりの

飾らない等身大の姿をご紹介します。



「光が交錯する青く透明な世界や、その中をふわふわと漂う浮遊感、海の珍しい生き物との出会いなど、陸上では決して味わえない不思議な感覚が楽しめるのがスキューバダイビングの魅力です」。小学生の頃からスイミングスクールに通い、「水」に親しんできた熱海さん。本学に入学後、パンフレットで「スキューバダイビング部」の存在を知り、入部しました。主な活動は、プール講習(5月)、下級生の各種ライセンス取得を目的とした山形・由良海岸合宿(7月)、女川・塚浜海岸トレーニング(8月上旬)、潜水技術を磨く沖縄合宿(8月下旬)、春の海外合宿(参加は有志)。他にも、関東学生潜水連盟主催フリップ大会(足ひれをつけた潜水競技)への参加や、海岸清掃ボランティアなど、その活動は実に多彩です。

さて、部活動に加えて、いつにも増して忙しい夏を過ごした熱海さん。大学祭の実行委員で宣伝部グループリーダーも務めました。「宣伝部は12名で組織されていましたが、任務やタスクを達成していくためには、各々に動いてもらわなくてはなりません。主導する立場としての難しさを感じました」。理路整然とした丁寧な話し方は、学外に向けた広報・宣伝・渉外活動で培われたもの。経験は成長の源ですね。



●同じダイビングスポットでも、季節やコンディションによってまったく違った表情を見せてくれる海。潜るたびに新しい魅力発見です。

熱海 智之さん
経産学部経営学科 3年

海の中のフシギ。一度潜ったら、その虜に。
たくさんの人に体験してもらいたい
スキューバダイビング!



●「工学基礎教育センター」の今年度前期の利用者数は、昨年度の同時期と比べて250%増。「マンツーマンでわかるまで丁寧に」が人気の秘密。



荒川 有香さん
工学部機械知能工学科 3年

上級生から下級生への学習支援、
チューター・チューターとして。教えることは、
自分自身の学びにもつながっています。

「数学」「物理」の学習支援体制の充実を目指して、2006年度に設置された「工学基礎教育センター」。当初は教員が相談員を務めてきましたが、2011年度から「チューター・チューター(ST)制度」を導入しました。上級生(3、4年生)が下級生(1、2年生)に個別指導するという学習スタイルは、気軽に利用できることと好評です。

荒川さんは物理の先生に薦められて今年度からSTの一員に。「教えるということは、私もその分野に熟知していなければならず、自分自身の復習にもなりますね。相手の立場になって、わかりやすく伝える姿勢を大切にしています」。大学1年生から続けている勤講師のアルバイトの経験も役に立っているかもしれません、と話します。

そんな「理系女子」の荒川さん、実は高校の時は、数学も物理も「嫌いではなかったけれど、決して得意な科目ではなかった」といいます。それでも本学科を目指した理由は、「実は、足を悪くした祖母の介護を通じて、行動を支援する機器の必要性を強く感じました。ロボット研究をするならこの学科しかないと思い、勉強を頑張りました」。3年生後半からはいよいよ研究室に配属され、本格的な実験や研究がスタートします。荒川さんのチャレンジに大いに期待ですね。

“貴重な大学の4年間、何か一つでもいいから目標を決めて”と教えてくださったのは原田先生(本誌10ページをご覧ください)。小林さんの場合は「全国47都道府県を旅すること」。「高校の地理の先生が世界中を旅行されている方で、興味深い話をたくさん聞かせてくださいました」。尊敬してやまない恩師に刺激され、「世界をこの目で見よう」と心に決めたのだといいます。

常にポジティブ&アクティブな小林さんですが、旅のスタイルは無理せず無茶せず自然体。旅先で出会った人びとの“生きた情報”をガイドに旅を続けます。「実際



に行ったり見たりした体験者の話は本物だと思うので。もちろん一人旅の安全対策も忘れませんが、見知らぬ人の親切に何度も救われました。景色を見て、自然の音や香りを感じ、名物を味わう…まさに五感で楽しむ旅です。

旅にまつわる夢は二つ。ひとつはイエローナイフ(カナダ)で大好きな人とオーロラを見ること、そして、自分が立てた旅行プランでご両親をヨーロッパに招待すること。「新婚旅行で憧れの美術館を訪れたそうなのですが、不運にも休館日だったという話を小さい頃に聞きました。だから私が旅の続きをさせてあげたいと思っています」。小林さん、これからは素敵な旅を!

●好きな言葉は、同じ旅好きの先輩から聞いた“行き当たり、バッチリ!” 全国制覇まで、あと21都道府県。



小林 桃子さん
教養学部言語文化学科 3年

さまざまな出会い、出来事、経験。
旅が私を成長させてくれます。
大学4年間の目標は47都道府県制覇!

CONTENTS

- 01 12,000の瞳、12,000の輝き。
リレーインタビュー・9
- 03 SPECIAL ISSUE [特別企画]
TG座談会：菊地法学部長×
法学部生・大学院生

- 05 後援会総会報告
- 06 地区後援会開催報告

- 07 CLOSE UP [同窓生インタビュー]
埼玉西武ライオンズ 岸 孝之さん
- 09 ゼミ・研究室探訪
文学部 総合人文学科 原田 浩司 ゼミ

- 11 倶楽部拝見
ボウリング部
- 12 CAMPUS NEWS

- 17 学務部より
学生部より
就職キャリア支援部より

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH(グロース)」の秋号が完成いたしました。5月の後援会総会、7月～9月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も学生の充実した大学生活のために、保護者の皆さまのご協力をお願いいたします。

TG座談会 法学部設置50周年

菊地法学部長

法学部生・大学院生

法を学んで、広がる自分の可能性。
将来は幅広いフィールドで活躍できる人材に。

東北学院大学法学部は今年で設置50周年を迎えました。一般に法学部は公務員や法曹養成が本流と捉えられていますが、私たちはそれらに加え、どんな組織においても役立つ汎用性の高い人材の教育に力を注いでいます。法は社会の秩序を保つルールであり、ルールは組織に欠かせないもの。ルールを学んだ人材は、組織の中で主体的に貢献することができるからです。

今回は学部生および大学院生を招き、法を学ぶ醍醐味やその先に見据える各々の将来について語っていただきました。(2015年8月27日)



法学部長 菊地 雄介

夢をかなえるために、法学部へ

菊地 普段は私のゼミで頭をフル回転させ、真剣に議論を行っている皆さんですが、この機会にぜひ本学へ進学した動機や、法学部を選んだ理由を聞かせてください。

小野寺 僕は高校時代から法律に興味があり、大学は法学部と決めていました。東北学院大学のオープンキャンパスに参加した際、図書館などの設備が充実して国公立に引けをとらないスケールだと感じ、この大学で学びたいと思ったんです。

横山 大好きな吹奏楽を地元仙台で続けたいという思いから、母の出身大学として親しみを持っていたこの大学を目指したんです。キャンパスが市街中心部という立地も決め手になりました。

茨木 子どもの頃からアナウンサーになるのが夢でした。法学部を選んだのは、自分が一番知らない分野だったから。法律を知ることによって教養をより深め、夢の実現に近づくことができるのではないかと考えました。

狩野 私の場合、正直に言うと第一志望の大学ではありませんでした。進学か浪人かでとても悩みましたが、法学部は就職先も



法学部3年 狩野 絢香さん

幅広いことを知り、ここで頑張って希望する業界へ就職しようと決意したんです。

菊地 法学部というと、法律ばかり勉強しているお堅いイメージをもたれがちですが、皆さんはそれぞれの興味や進路をしっかりと考えた上で進学されたわけですね。

視野が広がり、人間力もアップ

菊地 講義やゼミを通して、法律を学ぶ楽しさや難しさなど、実感したことはありますか。
茨木 入学当初は1つの事案に対して法律を選び、当てはめて解決するという一方で、法律は数学の公式みたいだと思いました。

でも、3年で学ぶ内容が専門的になると、法律の背景まで考えなければならず、公式に捉われて自分の視野が狭くなっていくことに気づきました。今は視野を広げるよう努力しつつ、自分なりの学び方を模索中です。

菊地 法律は必ず目の前に生身の人間がいる、その人がどう困っているのかを具体的に見る必要があります。その一方で、社会が理性的に回るためには具体的な状況を一步一步引いて抽象化し、ルールでさばっていくなければなりません。つまり、法律を学ぶ人は木を見ながら森も見る、森を見ながら一



つひとつの木も大事にするという、複眼的なものの方が大切なのです。

横山 大教室での授業は先生方の講義を聞く受け身のスタイルですが、ゼミは自分で考えて発言し、先生が直接コメントしてくださるのでとても楽しく、やりがいを感じます。

狩野 私は以前、自分の言いたいことを表現するのがとても苦手でした。でも、法律の問題を解いたり、ゼミで緊張しながらも発言していくうちに、言いたいことを声に出せるようになり、自分の成長を実感しています。

菊地 私のゼミは予習厳禁なので緊張しますよね(笑)。

法そのものを勉強していると、肝心の社会に目がいけなくなりがちです。ゼミでは事前の勉強よりも、皆さんがその場でどう考えるかを重視し、広い視野と多角的な知見を身につけてもらいたいと考えています。

横山 法律を学ぶようになってから、日常生活も少し変わりました。ニュースや新聞を見て、なぜこんな事件が起こるのか、物事の因果関係を整理して理解できるようになったんです。

菊地 単発的な知識ではなく、それぞれを関連づけて物事を深く考察する力は、社会に出ても役立つ人間力につながります。

私はよく“使える人間になろう”と話しますよね。人が使えるかどうかは、知らないことに直面した時にわかる。そんな時にも、知識をリンクさせて問題解決に導いたり、新しい何かを生み出せる人になってほしいですね。



法学部3年 横山 葵さん

一人ひとりを見つめたキャリア支援

菊地 佐川さんは大学院で学ぶ傍ら、チューターとして私のゼミ進行を手伝ってくださっていますね。

佐川 もともと学部を卒業して民間へ就職するつもりでしたが、就職活動に納得できず、自分らしい人生の道筋をつけるために研究科へ進みました。

菊地先生からアドバイスをいただき、現在は税理士を目指しています。税理士試験の受験科目が一部免除になる修士論文の作成に向けて、研究に没頭する毎日です。

菊地 税理士資格と並行して、国税専門官という専門職公務員への道も考えられるでしょう。法学部では、他に労働基準監督官や裁判所事務官なども目指すことができます。法曹三者以外にも、そうした形で大学院を経由していく学生は多いんですよ。

小野寺君も、卒業後は大学院への進学を考えているそうですね。

小野寺 大学院入試を目指す学生は少数派ですが、そんな仲間と自主的にゼミを組んで、切磋琢磨しながら勉強しています。

先生方も多忙な中添削に応じてくださいますし、わざわざ時間をとって解説して下さることもあるんです。学生と先生との距離の近さもこの大学の魅力だと思います。

菊地 大学生活においてはカリキュラム以外の学びも大切です。皆さんの自主的な学びや就職を見据えた活動など、できる限りの助言や支援をしますので、私たち教員に遠慮なく相談してください。

佐川 私にとって菊地先生は、まるで担任の先生のような存在ですね(笑)。

どんなことも親身になって考えてくださるので、ありがたく感じています。また、法学部は女性の先生方も多いので、専門分野のみならず人生の先輩としてさまざまなことを教えていただいています。



法学研究科 佐川 晴美さん

狩野 法律だけでなく、社会人として必要な知恵や心構えも学ぶことができ、本当にこの大学で良かったと思いますし、先生との出会いにも感謝の気持ちでいっぱいです。

菊地 ゼミも、教員との関わりも、今まで以上に風通しのよいものであるよう努めていきたいと思っています。

目標をもって、有意義な学生生活を

菊地 では最後に、皆さんは残りの学生生活をどのように過ごそうと考えていますか。これからの希望進路などもふまえて伺います。

小野寺 まずは来年の大学院入試ですね。自分の力を試すために、地元宮城から離れた西日本の大学院を目指して頑張ります。

横山 人と話すことや企画することが好きなので、誰かを笑顔にするような仕事に就きたいと思っています。そして、社会人になっても吹奏楽を続けるのが目標です。

狩野 先日、憧れていた航空会社のインターンシップに参加することができました。英語力の向上など課題はありますが、就職

活動でチャレンジしたいと考えています。

茨木 僕は放送会というサークル活動のほか、学外でも専門のレッスンを受けてアナウンス技術を

磨いています。就職活動では国内の放送局全てを視野に、力を尽くすつもりです。

佐川 研究と修士論文はもちろん、税理士に必須の簿記や会計学など、他の試験科目の勉強にもチャレンジしたいと思います。

菊地 「法律家=もの知り」というイメージですが、本当に大切なのは知識そのものではありません。知識を使って創意工夫を凝らせる、そんな人材こそが社会や地域に幅広く貢献し、豊かな未来を築いていくのです。

今日は皆さんのお話を伺い、とても頼もしく感じました。本学での学び、そして出会いや経験を生かし、将来さまざまな領域で活躍されることを期待しています。



次第

- 日時** 平成27年5月23日(土) 10時55分
- 会場** 東北学院大学泉キャンパス礼拝堂
- 司会** 後援会事務局長 渡邊 義春

- 開 会 司 会 者
- 聖書朗読並びに祈祷 宗 教 部 長 野 村 信
- 挨拶 会 長 鎌 田 宏
学 長 松 本 宣 郎
- 議 事
 - (1)平成26年度後援会庶務報告について 副 会 長 高 橋 祥 允
 - (2)平成26年度後援会収支決算報告並びに
会計監査報告について 会 計 担 当 理 事 白 木 進
監 事 浅 野 ひとみ
 - (3)平成27年度後援会事業計画(案)について 副 会 長 高 橋 祥 允
 - (4)平成27年度後援会収支予算(案)について 会 計 担 当 理 事 白 木 進
 - (5)その他
- 後援会役員紹介 司 会 者
- 閉 会 同 上



議長を務める鎌田会長



総会の様子

泉キャンパスに、約900名の保護者をお迎えし、平成27年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

- 平成27年度後援会庶務報告について**
高橋祥允副会長より、役員人事、平成26年度役員会、平成27年度後援会総会並びに大学開放プログラム、平成27年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認されました。
- 平成27年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について**
白木進会計担当理事より報告があり、原案通り承認されました。浅野ひとみ監事より帳簿等が正確に整備されていることについて監査報告がなされました。
- 平成27年度後援会事業計画(案)について**
高橋祥允副会長より、平成26年度後援会総会、平成26年度地区後援会、資格取得報奨制度について説明があり、原案通り承認されました。
- 平成27年度後援会収支予算(案)について**
白木進会計担当理事より説明があり、原案通り承認されました。

大学開放プログラムでは、毎年好評いただいております「学生の就職を考えるセミナー(講師:㈱文化放送キャリアパートナーズ取締役岡田航三氏)」のほか、戦場カメラマンの渡部陽一氏を講師に招いて「保護者と学生のための教養セミナー」を開催いたしました。会場は熱気にあふれ、盛会裏に終えることができました。



保護者と学生のための教養セミナー



学生の就職を考えるセミナー

■来年度は平成28年5月28日(土)に開催の予定です。ご案内状は4月下旬に発送の予定です。



7月～9月にかけて、北は札幌市から南は東京都までの全25地区に本学教職員が出向き、東北学院大学の近況のご報告や個別面談などを行いました。

また、就職情報会社などから専門の方を招いて、全地区で「学生の就職を考えるセミナー」を開催いたしました。昨今の就職状況について分析し、学生はどのように準備をしなければよいか、保護者はどのように関わるべきかなどに関しての内容で、保護者の方々の関心も高く、大変好評でした。次年度以降も、継続して開催していく予定ですので、保護者の皆さまのご出席をお待ちしております。



大崎会場の様子

総会・地区後援会に参加された保護者の皆さまの声を一部ご紹介いたします

[総会]

- 気になっていた成績や単位について直接先生方に話ができ、助言をいただけ安心できました。(機械知能工学科2年)
- 就職を考えるセミナーでは、親としてのアドバイスの仕方や現在の就職の考え方が良く分かり勉強になりました。(法律学科3年)
- 戦場カメラマンの渡部陽一さんは、個性的な話と体験談が面白くて良かった。(言語文化学科3年)
- パイプオルガンコンサートは大変すばしかったです。迫力のある音色で、この大学でしか聞けない貴重な思い出になりました。(英文学科2年)
- ゆとりのある落ち着いた景色で、緑あふれるキャンパスだと思いました。(英文学科2年)

[地区後援会]

- 地区後援会は大学を知る有意義な会であると思います。仙台まで行けない私達にとって大変助かりました。(情報科学科4年)
- 個別面談では、不安に思っていたことを説明いただき安心しました。丁寧に対応していただきありがとうございました。(電気情報工学科3年)
- 就職セミナーは、就職の現状、学生の意識、新聞やTVなどの報道とのギャップなど、現実的で参考になりました。(経済学科2年)
- 大学紹介DVDは各キャンパスの学生の様子がわかりやすく紹介されていて良かったです。(法律学科2年)
- 4年間毎回参加させて頂きました。親元を離れていても大学側のあたたかいサポートのもと、授業、課外活動、就職活動に励めていたであろうと思います。感謝しております。(地域構想学科4年)

東北学院大学後援会
資格取得報奨制度について

東北学院大学後援会では、資格取得の奨励と学生の資質向上を目的として、後援会費を納入いただいている現役の大学院生、学部生を対象に、在学中の国家資格取得者やTOEIC、TOEFLなどの基準点取得者へ、資格取得報奨金または図書カードを給付いたします。

※東北学院大学後援会資格取得報奨制度規程は、後援会及び大学のホームページなどに掲載しております。該当する方は、規程をご確認の上、就職キャリア支援課(係)へ申請してください。

■給付額一覧

司法試験合格者、公認会計士、税理士、弁理士、司法書士、第一級総合無線通信士、システム監査技術者、ITストラテジスト ほか	現金20万円
中小企業診断士、行政書士、社会保険労務士、気象予報士、土地家屋調査士、不動産鑑定士、測量士、知的財産管理技能検定1級、通訳案内士、一級総合無線通信士、ITサービスマネージャ、一級陸上無線技師、環境計量士、情報セキュリティスペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、応用情報技術者、総合旅行業務取扱管理者 ほか	現金10万円
通関士、宅建取引主任者、インテリアコーディネーター、エネルギー管理士、放射線取扱主任者、一般計量士、公害防止管理者(大気)、知的財産管理技能検定2級、基本情報技術者、管理業務主任者、一級造園施工管理技士、社会福祉士、危険物取扱者(甲種)、技術士補 ほか	現金5万円
TOEIC(合計730点以上)、TOEFL(当該年度試験の平均点以上)、英検1級、日商簿記1級 ※1. TOEFLの基準点については、申請前に必ず国際交流課で確認のこと。 ※2. TOEIC、TOEFLの申請については、在学中1回とする。	3万円の図書カード



出会いのその先で、今見る景色

ピッチャーとして歩みはじめた中学時代、プロを意識し始めた大学時代。

2006年に西武ライオンズに入団後、パシフィック・リーグ優秀新人賞(2007年)、日本シリーズMVP(2008)、最優秀勝率投手(2014)、ノーヒットノーラン(2014)など、輝かしい賞とタイトルを獲得してきた岸さん。野球は小学3年生の時、社会人野球の監督をしていた父の影響で始めたという。ピッチャーというポジションについて、「正直なところ、担うことになったきっかけはよく覚えていません。小学校では色々なポジションをやっていましたね」。岸さんは、中学校から本格的にピッチャーというポジションについた。そこから、高校、大学と、ピッチャーとしてマウンドに立った。プロ野球選手としての道を意識し始めたのは、大学4年生の時だった。岸さんが所属していた硬式野球部は、仙台六大学野球春季リーグで35季ぶりに東北福祉大学を破り、全日本大学選手権大会に出場。この頃から、「プロに行けるかもしれない」と思ったという。その後、ピッチャーとして、日米大学野球選手権大会、世界大学野球選手権大会に選出され、その気持ちが強くなった。

勉学の両立、課外活動で学んだこと。

マウンドでバッターを次々と打ち取るその姿からは想像しにくい。岸さんもまた、学生時代は“文武両道”に苦慮していたようだ。「早朝に練習を行い、講義に出る。または、講義が終わってから練習をしていました。ただ、なかなか勉学との両立が難しいこともあって…。基本的に、リーグ戦は土曜、日曜で行われるが、引き分けがあると月曜に試合が行われた。そのため、講義への出席が難しいこともあったということで、「東北学院大学の看板を背負って試合に出ている学生が、しっかりと卒業できるよ、より一層のサポートをしていただければ」と、後輩への思いやりと大学への期待を滲ませる岸さん。4年間の課外活動では、学んだことも多かったという。「野球を通して礼儀を学びました。また、大学の野球部員をはじめ、他大学の野球部員など、様々な方と知り合えました。課外活動の4年間を通して、“人との出会い”が、かけがえのない財産だと思っています」。

出会い、そして…。

人はそれぞれを生き、それぞれを歩んでいく。それでも出会いが、人のそれぞれを変えていく。岸さんもまた、そうした出会いの先で、今見る景色がある。

「日米野球の選考会に行ったとき、ある大学の監督がいらっしゃっていて、その方が私を推薦してくださいました。その推薦がなければ出場できなかったと思いますし、そこでの貴重な経験もできなかったはずですよ」と語る岸さん。

その一方で、「大学生の頃は、友人と過ごす時間がとても楽しくて、いつまでも忘れられない思い出です」と懐かしんでいた。

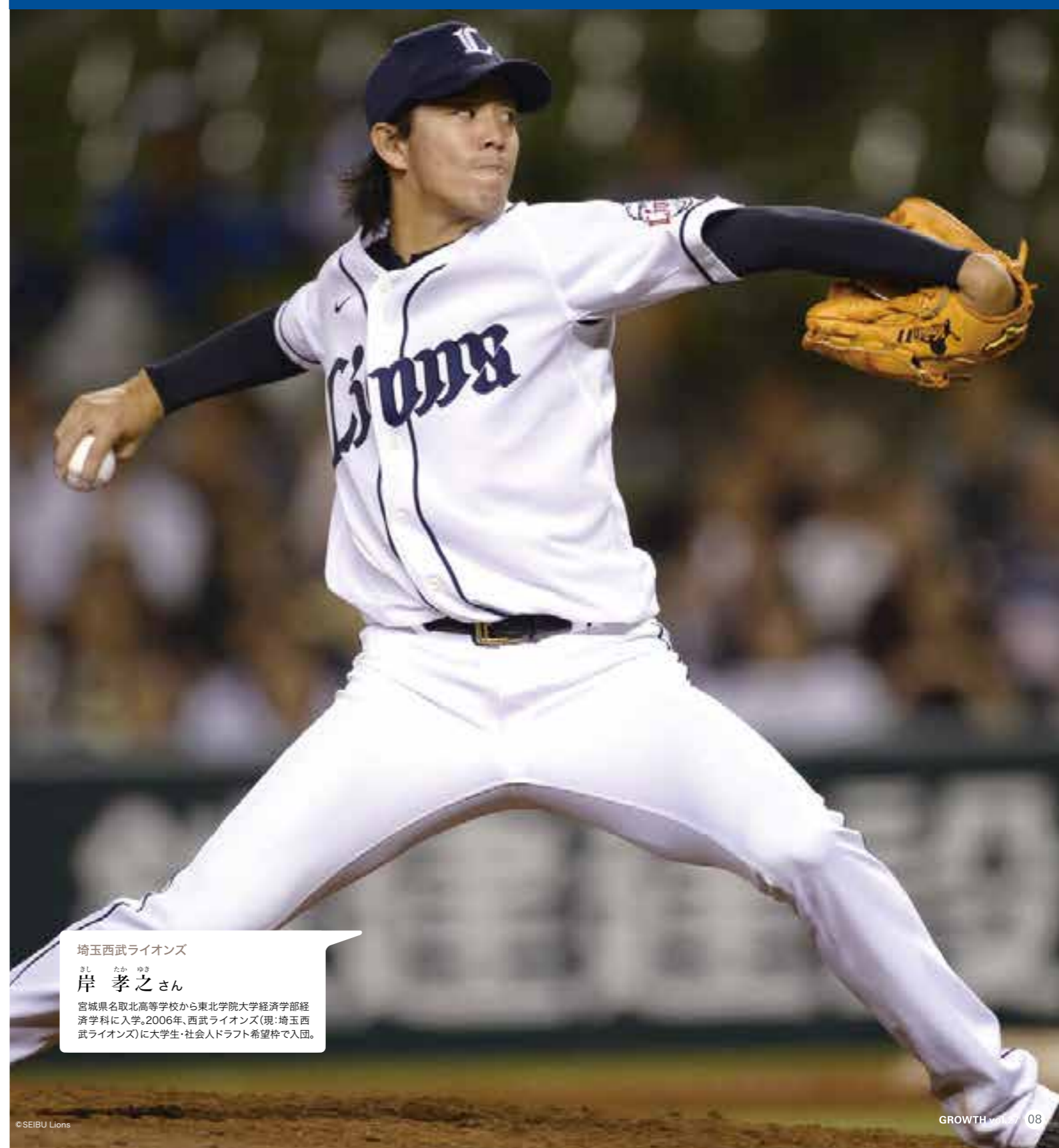
学生時代は、多くの出会いに恵まれている時期だ。しかし、その一つ一つの出会いと大切に向き合ってきた岸さんだからこそ、その目に映る世界は、今、確かに輝いているのだろう。そしてそれは、これからも。



©SEIBU Lions

CLOSE UP

一球込めて、つなぐ夢。



埼玉西武ライオンズ

岸 孝之さん

宮城県名取北高等学校から東北学院大学経済学部経済学科に入学。2006年、西武ライオンズ(現・埼玉西武ライオンズ)に大学生・社会人ドラフト希望枠で入団。

©SEIBU Lions

よりよく豊かに生きる導き。 人生の意味をダイナミックに転換する キリスト教の教え。

文学部 総合人文学科 原田 浩司 ゼミ

「大学4年間は、またとない貴重な時間だった」と思うのは、卒業してから。経験者が言うのですから間違いありません(笑)。

原田 浩司 准教授 / 1973年生。1997年東北学院大学教養学部卒、2001年東京神学大学大学院博士前期課程修了、2001~2007年日本基督教団富田林教会牧師、2001~2003年清教学園高校聖書科非常勤講師、2007~2009年英国スコットランド自由教会大学留学、2010年英国グラスゴー大学よりM.Th. (Master of Theology: 神学修士号)を授与される。帰国後、上智大学とルーテル学院大学大学院にて死生学を学ぶ。2011年4月東北学院大学助教、2015年より現職。

「人間の本质を知りたい」。 心理学、哲学、そしてたどり着いた神学。

「歴史神学」を専門とし、その研究と教育を担い、また牧師として教会の説教壇に立つ私が、生まれて初めて聖書を手にしたのは、実は、東北学院大学に入学してからです。クリスチャンファミリーのもとに生まれたとか、教会が身近にあったというバックグラウンドを持つわけではありません。

高校時代はサッカーに明け暮れる一方、「人のこころ」「人間の本质」を知りたい、探究したいという強い想いを抱いていました。本学で人間科学を専攻し、

～世界的な競争と共生が進む現代社会において、高い語学力とコミュニケーション能力、チャレンジ精神を携えた「グローバル人材」の育成が急務であるとされています。様々な背景を持つ人びとと交流・協働していくためには、外国語が堪能であるだけでなく、異文化や多様な価値観への理解と受容が大切になってきます。
「世界の3割以上の方が信教しているとされるキリスト教を知ることは、世界の人びとに対する理解を深めることにもつながります」と語るのは原田先生。人生の新しい扉を開いてくれたキリスト教との不思議な縁(えにし)についてお話しくださいました。～

心理学を学び始めたのですが、人間の行動や認知を客観的に観察し、科学的な手法によって研究していくことに、人の息遣いが感じられず、違和感を持ったのです。次は哲学の門を叩いたのですが、あくまでも理性的に考えようとする学問的姿勢は、「生身の人間」から遠く隔たってしまうように思われたのです。人の生き方につながる学問を探し求め、神学(キリスト教)にたどり着きました。紆余曲折、何やら長い旅路となってしまいましたが、私がそれまで考えていた「人生の意味」や物事の捉え方をダイナミックに転換するキリスト教の教えと視点に、目が開かれる思いがしました。

学び直しのために、スコットランドへ。 古英語と格闘する日々を重ねて。

卒業後は東京神学大学大学院に進み、修了後、大阪で牧師としての活動を始めました。6年半、市井の人びとに寄り添い、喜怒哀楽を共にする中で、「教会とは何か」という問いに改めて向き合うことが多くなりました。学び直しの必要があると一念発起。スコットランドに研究留学し、16世紀に興った宗教改革、

プロテスタントの源流について研究しました。当時書かれた第一次資料(オリジナル)に当たり、ネイティブでも学習を苦手とするオールドイングリッシュ(古英語)と格闘。どこに出掛けるでもなく、ひたすら図書館とフラット(アパート)を往復する日々を重ねました。思えば、日本で様々なつながりを断ち切ってやってきた異国の地。何としても目的・目標を達成せねばという強い想いがあったように思います。

今日という日は、今日だけ。 有限感を持つことで変わる 人生の意味と意義。

旧約聖書は最古の文書が約3000年前、新約聖書では約2000年前に書かれましたが、時間による風化と淘汰を受けず、今も世界中の多くの人びとの生きる指針、心のよりどころとして足下を照らし続けています。その普遍性には、私たちが生きる導きとなるものがたくさん息づいています。

私は「死生学」の教科を担当しています。死という文字が入って、何かまがまがしいもののように思われるかもしれませんが、これは「人間はいつか死ぬ」という揺るぎのない事実から、「いのち」の問題を考えていくという試みです。

特に若い時には「時間の有限感」は抱きにくいものです。しかし、始まりがあれば終わりがあるというのが、キリスト教の根幹をなす思想です。今日という一日は必ず終わる、と考えるならば、精一杯生きようという気持ちが生まれてくるのではないのでしょうか。限られた大学の4年間。この貴重な得難い時間をただ無為に、なんとなく過ごすのではなく、何か一つでもいいから目標を決めて—もちろん勉強でなくてもいいのです—それに向かって歩みを進めてほしいと願っています。

私は大学に入学した時、これから4年間はたくさんの本を読もうと決心しました。大学3年生の夏休みには、特に感銘を受けた三浦綾子さんの小説の舞台を

スコットランド 研究留学



↑改革者ノックスの銅像の前で(エジンバラ大学ニューカレッジ)



↑エジンバラプリンセスストリートにて



↑グラスゴー大学の卒業式指導教員マッキントッシュ教授と共に



←カレッジの図書室で日々研究

MY FAVORITE



写真は自転車旅行の様子

← 私のお気に入り

「世界とは一冊の本であり、旅に出ない者は同じ頁ばかり読んでいるのだ」とは古代キリスト教の神学者・哲学者であるアウグスティヌス(354年-430年)の言葉です。私も高校・大学時代は、旅を友としてきました。私の旅のスタイルは、自力型。自転車に寝袋を積んで、自慢の脚力で進みます。高校時代は群馬に住んでいたのですが、目指したのはいつも東北。高校2年の夏には、新潟に出て日本海沿いに走って青森まで、それの転勤に伴って、今日まで計17回引越しをしていますが、生地は会津。ですから「いつか東北に帰るぞ」と思い続けてきたのです。寄り道はありましたが、今こうして東北の母校で教鞭をとっていることに深い感慨を覚えます。

倶楽部 拝見

ボウリング部



「ボウリングのジャンルは?」。そう聞かれたら、ほとんどの人は「娯楽」というイメージを持つのではないだろうか。誰もが気軽に楽しめるそれは、確かに娯楽のひとつでもある。が、ボウリングは紛れもないスポーツ。2020年東京五輪の追加競技入りを目指していることから、それは明らかであり、現在、ボウリング部に所属する15人のメンバーも、競技としてのボウリ

ングに打ち込む日々を過ごしている。

「活動方針は、ボウリングを通して学生生活を楽しむことですが、スポーツである以上、勝ちにはこだわりたいですね」。こう話すのは、主将を務める佐々木さん。入学前まで趣味程度だったボウリングを本格的に始めようと思ったのは、勧誘チラシに書いてあった、こんな一文に惹かれたからだという。「実質、1ゲーム100円以下」。そんなに安く好きなことを楽しめるのならと入部して以降、すっかりボウリング三昧の日々になった。練習場まではキャンパスからかなりの距離があり、全体練習も週に一日しかないが、佐々木さんは週に4~5日、多い日は1日15ゲーム投げ込むこともあるという。もちろんそれは、ボウリングが好きという理由が第一だが、目標はやはり、大会での勝利。佐々木さんは、「11月に全日本学生ボウリング選手権大会の団体戦、2月には個人戦があるのですが、出場するからには入賞を目指したいです

ね。メンバーで技術を高め合って、そこを目指せるだけの実力をつけられたら」と、全国の舞台でストライクを連発するイメージを描く。

そんなボウリング部では、部員を随時募集中とのこと。「男女問わず大歓迎です」ということなので、興味がある学生は、一度練習を見学してみてもはどうだろう。



主将
佐々木 駿さん
(経営学部 経営学科2年)

CAMPUS NEWS

土樋キャンパスが変わります

北地区新校舎には、研究室、演習室、講義室などとともに、カフェ、ラーニング・コモンズ(コラトリエ・リエゾン、コラトリエ・コモンズ、コラトリエ・サヴォア)が置かれます。

ラーニング・コモンズは、学生が集い、互いに教えあい、学びあう場所です。そして、主体的に問題を発見・解決するアクティブ・ラーニングを実現する場でもあります。

北地区新校舎に誕生する新しい学びの場について、保護者の皆さまへ、その概要をご紹介します。



2階東側 コラトリエ・サヴォア

教員や常駐する専門スタッフによるきめ細やかな学習支援を受けられるスペース、各種学術情報を検索できるPC、各種資料、小・中規模で行うグループ学習やゼミに対応した学習室を設置しています。

ここで行われる学習支援は、主にレポート・論文の書き方指導、情報検索方法、プレゼンテーション指導などを予定しています。



また、フロアは国際交流課と隣接しており、国際交流ラウンジでは留学生との交流を持つことができます。ラウンジに設置された大型ディスプレイでは海外のニュース・情報番組が常時視聴可能で、交流と教材の相乗効果により、まさに生きた外国語を学ぶことができます。



1階東側 コラトリエ・コモンズ

授業内、授業外での主体的な学習活動を行うスペースです。

フロアにはインタラクティブボード(電子黒板)・ホワイトボード・卓上型プロジェクター、可動式の机・椅子を、窓際には一人用席、壁際には固定式の机・ソファを設置。大人数でのディスカッション、少人数、個人での学びなど、様々な学びのスタイルに合わせた多彩な空間を作ることにより、「学びの楽しさ」を誘発します。

ここでは、大規模な講演会・セミナー・ワークショップ・発表会など多彩なイベントが可能です。



2016年4月、 土樋キャンパスに新校舎が 誕生します。



北地区新校舎(仮称)全景イメージ

1階西側 コラトリエ・リエゾン

カフェに隣接し、オープンでくつろいだ雰囲気の中、学習に取り組むことができます。また、コラトリエ・リエゾンは大学のイベントスペースとしての顔も持ち、地域社会と本学を「知」と「学び」でつなぐ交流の場としても大きな役割を果たします。

優しいカーブを描くユニークなひな壇式のベンチを設置するなど、やわらかで快適な空間の演出にもこだわっています。



全体
コンセプト

3つのCoから
生まれるもの

Collaborate (協同)
Communication (交流)
Commons (共有)

Co+Learning+Atelier = コラトリエ

協同学習による交流を通じて
得られる様々な価値観や
学びの共有を実現する

「知的アトリエ」

カフェ
1階



パンを中心とした軽食カフェが設置されます。コラトリエ・リエゾンと一体の利用が可能です。学生、教職員、さらには地域の方々にくつろぎを提供します。

多目的
ホール
地下1階



講演会、演奏会など多彩な催しが行われるホールです。地域の方々の利用も可能です。

施設概要 ●名称:コラトリエ 施設面積:1,259㎡

	1階		2階	全体計
	コモンズ	リエゾン	サヴォア	
面積	378㎡	166㎡	715㎡	1,259㎡
座席数	(飲み物可) 133席 [プロセスボックス:固定席48席 オープンスクエア:可動席80席 検索スペース:5席]	(飲食可) 40席	(飲み物可) 149席 [グループスタディルーム:可動席16席×2室 グループスタディエリア:可動席39席 ラーニングサポートエリア:53席 国際交流ラウンジ:19席 インフォメーションラウンジ:6席]	322席

支援環境

●コラトリエにおける学修支援

全てのフロアにおいて、学生の主体的学びを実現するため、正課学習・正課外学習(事前・事後学習、フィールドワーク、サークル活動)に対し設備面・人的側面からの総合的支援(学修支援)を行う。

●ラーニングサポートエリアでの学習支援(2階サヴォア)

支援内容▶アカデミックスキル指導、レポート作成支援

●PCサポート支援(1階コモンズ、2階サヴォア)

支援内容▶ソフトウェア、機器利用に関すること

●情報支援(1階、2階インフォメーションカウンター)

ラーニング・コモンズ内のイベント情報、利用情報を提供
各エリア▶サイネージディスプレイ設置



利用目的

●学生の主体的な学習活動、とりわけ協同学習による学びの共有・深化

- (1) 個人またはグループによる自主的な学習活動とそれに対する支援
- (2) プレゼンテーション、ポスターセッション、シンポジウム、パネルディスカッション、講演会、セミナー、ワークショップ等の開催
- (3) 講義、演習および実習などの授業科目と連携した学修支援
- (4) 学習支援に関する調査研究
- (5) その他前項の目的に適合活動

※「学習支援」「学修支援」とは…
学習支援▶アカデミックスキル指導や学習相談等の直接的支援
学修支援▶正課+正課外の学び(事前準備、復習)からなる
「大学での学び」に対する総合的支援

利用環境

●ネットワーク・インターネット環境(Windows,Mac対応)

貸出PC・持込PC・共用デスクトップPC利用可能

●プリントサービス環境(Windows,Mac対応)

- ①レーザーカラープリンター ②コピー(複合機) ③プロッター(大判プリンター)

●貸出PC利用サービス環境

- ①貸出用ノート型PC70台 ②貸出用PCロッカー

●AV・ICT機器利用サービス環境

- ①プロジェクター、大型ディスプレイ、音響設備 ②インタラクティブホワイトボード(電子黒板)

●大型ディスプレイを利用した情報発信

●ユニバーサルデザイン



2015年7月現在の進捗状況



ベガルタ仙台と 包括連携協定締結

7月19日(日)、サッカーJ1仙台を運営する(株)ベガルタ仙台と東北学院大学は、学術・プロスポーツの分野で協力して地域活性化に貢献することを目的とした包括連携に関する協定を締結しました。

ベガルタ仙台は、2011年3月の東日本大震災後、「希望の星になる」をスローガンにクラブが一丸となって勝利を目指すとともに、被災者に寄り添い励まそうと様々な事業を展開しており、スポーツによる経済活性化効果も期待されています。

本学教養学部の天野准教授のゼミ生は、5年前から、ベガルタ仙台のホームゲームの来場者調査を行うなど、ベガルタ仙台との交流を続けてきました。今後も調査を継続し、さらに関係を強化するほか、地域の小学生を対象としたサッカー教室や、ベガルタ仙台のスタッフ・選手を招いて、大学での講義・セミナーの開催などを予定しています。

また、今年度後期、経済学科の特殊講義IVでは、「地域におけるプロサッカークラブ『ベガルタ仙台』のあり方を考える」をテーマに、ベガルタ仙台から講師陣を招き、全15回の講義を行います。地域のシンボルたるプロサッカークラブとして、豊かなスポーツ文化の振興や青少年の健全育成、地域の活性化に向けた取り組み、地域に与える経済効果といった内容が中心です。9月17日(木)から講義が開始され、第1回目を担当された



7月19日 協定締結式で握手を交わす松本学長と西川善久社長

西川善久社長は、「ベガルタというチーム名は、『ベガ』と『アルタイル』という七々にちなんだ名前が付けられ、【人々の希望を叶える】という願いが込められています。ベガルタ仙台も、その想いを胸に、この20年やってきました」とお話しされ、受講した学生たちは真剣に聞き入っていました。

7月に行われた協定締結の際、松本学長は「こうした企業との提携によって、学生が大学から外に出て貴重な社会経験を積む機会を設けたい」とあいさつし、ベガルタ仙台の西川善久社長は「在仙私学で最も影響力がある東北学院大学との提携により、スポンサーとの連携強化や集客にもつなげたい」と述べ、かたい握手を交わしました。



経済学科「特殊講義IV」第1回目の講義風景

学務部より

TGベーシックの検証 ②

学務部長
千葉 昭彦

前号では2013年度から経済学部、経営学部、法学部、工学部で実施し、今年度から文学部、教養学部でも導入しているTGベーシックについて説明し、導入2年間の検証作業から見られた課題について述べてきました。今回もそこでみられるいくつかの課題を考えてみます。

科目によって履修率に大きな相違がみられること、文系学部では理系科目の、理系学部では文系科目の履修率が低くなっていることなどを前回は挙げました。これなどは履修指導で変わる可能性もあり、実際に経済学部では2014年度に411人だった「読解・作文の技」の受講者が、新入生の履修指導をより徹底したことによって2015年度には637人に増加しました。

学生による授業アンケートでは、「授業目的」や「到達目標の達成」の設問において、ポジティブな回答がいずれの学部でも5割を超えますが、なかでも「キャリア形成と大学生活」、「読解・作文の技法」、「研究・発表の技法」は高い評価になっています。総合評価でもこれらの科目に加えて、「市民社会を生きる」、「科学的思考の基礎」、「情報化社会の基礎」も高い評価がみられました。また、登録者数は300人を超えるとネガティブな評価が多くなり、100人程度のクラスでは概ね評価が高くなっています。ただ、少人数とは言っても登録者10人を下回るような場合にはネガティブな評価も少なくはありません。

TGベーシックは現在導入から3年目。履修指導や講義の内容や方法、授業環境など、まだまだ不断の検証・改善に取り組む余地があると認識しています。と同時に、学生のより能動的な取り組みも求められてもいます。

学生部より

内服薬の取り扱いについて

学生部長
石塚 秀樹

これまで保健室では、体調不良に備え、鎮痛剤・胃腸薬・風邪薬などの内服薬を常備しておりました。しかし昨今、アレルギー体質の方が増加傾向にあること、また市販薬の中には非常にまれであるものの、重篤な副作用を発現するものがあるため、校医から助言・指導をいただき見直しを行うことになりました。

本来、市販されている内服薬は、薬物アレルギーや副作用などの事故防止のために、使用の方が薬剤師などから提供された適切な情報に基づき、自らの判断で購入し使用するものです。これらの点を踏まえ、保健室では平成27年4月1日より、原則として内服薬を取り扱わないことになりました。

普段から頭痛、腹痛、生理痛などを起こしやすく内服薬を必要とする方は、緊急時に対応できるよう自分の体質に合ったものを各自で準備し、常時携帯するようお願いいたします。

急な発熱や腹痛などの体調不良の場合は、時期を失せず適切な医療機関を受診することが重要です。保健室では、学内での急病やけがについては応急処置を行い、必要時は近隣の医療機関を紹介しております。また、休養室も用意しております。学生生活が安心・安全に送れるようサポートしていく姿勢に変わりはありませんので、ご理解とご協力をお願いいたします。

就職キャリア支援部より

10月以降の就職キャリア支援行事

就職キャリア支援部長
ロングクリストファー

皆様の手元にこの冊子が届くころ、3・4年生対象の様々な就職キャリア支援活動が行われています。3年生に対して「就職キャリア支援ガイダンス」が3つのキャンパスにおいて年度末までにほぼ毎月行われています。また、採用試験として広く使用される適性検査の勉強会及びSPI適性検査の実施(無料)が行われます。保護者の皆様に対して「保護者のための就職セミナー」が例年通り泉キャンパス(11月)及び多賀城キャンパス(1月)で実施されます。各学部学科別のきめ細かな就職に関する情報・相談・アドバイスの提供及び保護者の皆様と本学の教職員との間での意識共有が主な目的です。

未内定の4年生は、この時期になると、就職が決まないと「もうダメだ!」と焦りはじめる学生もいます。しかし、決してあきらめる必要はありません。就職キャリア支援部では10月から年度末にかけて、多くの4年生対象の特別就職キャリア支援を行っております。10月上旬に行われる「東北地区私立学就職セミナー」、10月～12月に行われる「採用直接型インターンシップ」及び「フォロー講座」はその具体例です。また、「企業紹介制度」を通して、登録学生に企業への紹介も行われております。

就職活動は学生にとって多大なストレスを伴います。決して一人で悩まず、早めに就職キャリア支援課(係)で相談を受けることを願っております。学生一人一人の就職のため、就職キャリア支援部の教職員が一丸となって努力をしております。今後も、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

後援会の主な事業・助成のご紹介

後援会では、在学生の円滑な学生生活と大学の充実、発展に寄与するため、「大学と家庭をむすぶ」をモットーに各種事業を展開し、以下のような助成をおこなっております。

後援会総会、大学開放プログラム、地区後援会の実施

東北学院大学後援会資格取得報奨制度

※6ページをご参照願います。

体育会、学生会、文化会等の課外活動団体への助成

就職活動に対する助成

各種イベントの開催

- 合同企業セミナー
- 保護者のための就職セミナー
- 職業人によるトークイベント
- エントリーシート添削講座
- 面接フォローアップ講座 など

東北学院大学各種奨学金への助成

保健衛生に対する助成

後援会ホームページのご案内

東北学院大学後援会のホームページでは、後援会の最新情報をお届けするほか、後援会総会・地区後援会のご案内、後援会通信のバックナンバーなどを随時更新いたします。

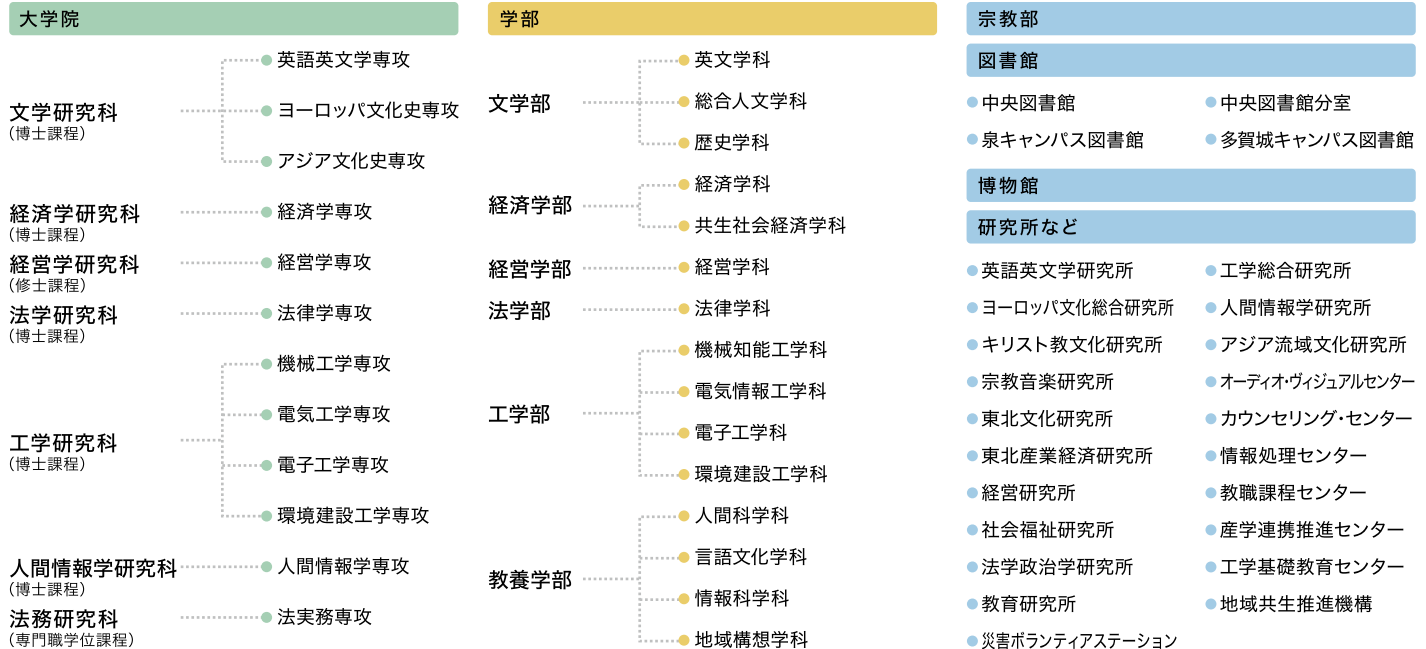


<http://www.tgu-kouenkai.org/>

- 会長 …… 鎌田宏(仙台市)
- 副会長 …… 後藤久幸(仙台市)・高橋祥允(仙台市)
- 庶務担当理事 …… 白木進(仙台市)
- 会計担当理事 …… 浅野ひとみ(仙台市)
- 理事 …… 寒河江満子(仙台市)・佐久間敬子(仙台市)・村山令記(仙台市)・齋藤靖(仙台市)・今野文昭(仙台市)・庄子真由美(仙台市)・小久保仁(仙台市)・長谷昌武(仙台市)・庄司幸男(気仙沼市)・武内宏之(石巻市)・櫻井俊寛(大河原町)・桂久(札幌市)・成田智典(青森市)・松本宏(八戸市)・小野寺久美子(秋田市)・深澤禎彦(横手市)・工藤敏納(盛岡市)・及川和夫(北上市)・高橋清一(釜石市)・浦島康弘(大船渡市)・金子泰雄(山形市)・鈴木信一(酒田市)・國分容子(福島市)・只野裕一(相馬市)・影山昭平朗(郡山市)・福井丈夫(新潟市)
- 監事 …… 菅野雅之(仙台市)・中鉢俊也(仙台市)
- 顧問 …… 松本宣郎・佐々木哲夫
- 参与 …… 高木龍一郎・原田善教・村野井仁・前田修也
高橋志朗・菊地雄介・中沢正利・佐久間政広
野村信・齋藤信二・千葉昭彦・七海雅人・石塚秀樹
ロング クリストファー・中川清和・楊世英・日野望
- 事務局長 …… 渡邊義春
- 事務局員 …… 小松隆・二階堂哲・宮川信明・荒井和弘・小原久久
木村悦子・土田恵介・増田敏・水野徹・森谷徹
廣瀬理行

ORGANIZATION 教学組織図

平成27(2015)年4月1日現在



東北学院大学

2016年、東北学院は創立130周年を迎えます。

土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、法務研究科

学部：文学部・経済学部・経営学部
法学部(各3・4年)、夜間主コース

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
tel 022-264-6421(総務課)
fax 022-264-3030(//)

多賀城キャンパス

大学院：工学研究科

学部：工学部

〒985-8537 多賀城市中央1-13-1
tel 022-368-1116(庶務係)
fax 022-368-7070(//)

泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科

学部：文学部・経済学部・経営学部
法学部(各1・2年)、教養学部

〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1
tel 022-375-1121(庶務係)
fax 022-375-4040(//)

東北学院大学後援会通信 GROWTH (グロース) vol.27

■本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日/平成27(2015)年10月

編集/東北学院大学後援会事務局(総務部総務課内)

発行/東北学院大学後援会 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 tel 022-264-6411 fax 022-264-3030

E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp URL http://www.tgu-kouenkai.org/

印刷/ハリウコミュニケーションズ株式会社

○GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙一3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と人に視されつつ大きく成長するようという期待が本誌に込められています。

【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

【「個人情報保護法」への取り組みについて】平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたに伴い、東北学院大学後援会では個人情報の取り扱いについて、学校法人東北学院が制定した「学校法人東北学院個人情報保護規程」にのっとり、個人情報の適正な管理と保護に努めています。後援会事務局では、東北学院大学後援会の運営に必要な皆様の個人情報をお預りしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱っておりますので、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、後援会事務局で使用される個人情報の利用目的は次の通りです。

●「保護者のための大学ガイド」並びに「後援会通信「グロース」」の発行・送付 ●「後援会総会」並びに「地区後援会」の案内 ●その他、上記に関連する業務



GROWTHは、地産地消・輸送マイルージに配慮したライズインクを使用して印刷しています。